

# 国土管理・コンサル部会

国土管理・コンサル部会 部会長 吉川 和男

## 1. はじめに

「国土管理・コンサル部会」は、測位・測量及び地理空間情報をベースに、国土管理、社会資本の維持管理、環境、防災、産業、地域活性化等の社会の様々な分野においての、応用解析、機器・ソフトウェア適用、品質管理、複合・統合化等を研究活動分野としている。

WG活動として、技術分野に特化した「ドローンWG」を設置し、1部会1WG体制で活動を実施している。ドローンWGは、測量調査分野におけるドローン活用の先導役となることを目指

し、専門技術と実地経験に基づく知見を集約し、技術開発・検証、安全運航の推進及び運用・指針等の検討と関係機関への提言や他業界との技術交流等に関する活動分野としている。

## 2. 2025年度活動状況

### (1) 国土管理・コンサル部会

2025年度は33社42名が参加し、1回の幹事会(4/16)、4回の部会(6/6、7/24、11/6、1/21)、エクスカージョン(11/7)を開催し、最新の技術動向や情報共有等を実施した。

表1 国土管理・コンサル部会の活動状況(2025年度)

活動項目	活動内容
部会内勉強会	①「三次元情報の活用と標高改定イベントの関わり方」国際航業/大山 容一氏 ②「能登半島地震の被災体験と豪雨災害」アジア航測/山崎 廣二氏 ③「部会エクスカージョンと防災課題」京葉測量/本多 正人氏 ④「xROAD・道路データプラットフォームの活用」パスコ/窪田 智則氏 ⑤「エクスカージョン参加報告」中日本航空/高仲 貴志氏 ⑥「能登半島地震/奥能登豪雨、その後の現地状況」北日本ジオグラフィ/小中 真道氏
自主研究活動	① 3次元空間情報の活用に関する研究 3次元空間情報の利活用促進を目的として研究を継続している。現在は、航空レーザ測量成果の精度および適用限界の整理に加え、微地形表現図の技術的特徴を作成メカニズムの観点から検討している。 ② 空間情報による被災状況把握技術に関する研究 災害時の各種空間情報による被災状況把握技術について研究を継続している。2024年に発生した複合災害「能登半島地震・奥能登豪雨災害」における対応と課題を、特に地元業者:北日本ジオグラフィの対応に着目・整理し、「先端測量技術123号」に掲載した。
地域開催 エクスカージョン	年1回の地域開催を「名古屋市内」のアジア航測の会議室にて実施、翌日のエクスカージョン視察地の状況等について、大興計測技術/小川 孝之氏、中日本航空/川本 晃治氏より話題提供いただいた。エクスカージョンでは「木曾川流域の砂防」をテーマにBIM/CIMの工事現場や被災地等を視察した。
外部委員活動	① 社会資本整備審議会道路分科会 道路技術小委員会 道路土工構造物分野会議 ② 日本道路協会 震災対策委員会



エクスカージョン「木曽川流域の砂防」当日の行程



中部地方整備局「旬な現場」  
荒道谷砂防堰堤改良工事現場視察 (BIM/CIM)

(2) ドローンWG

2025年度は53社77名が参加し、1回の幹事会  
(5/20)、4回のWG (7/10、9/17、11/25、1/14)

を開催し、特に安全管理や他業界等の交流等に  
重点を置き、活動を実施した。

(ドローンWG長 山崎 廣二)

表2 ドローンWGの活動状況 (2025年度)

活動項目	活動内容
他業界との意見交換会	① DSPA (一般社団法人 ドローンサービス推進協議会) 様との意見交換会 DSPA代表理事: 東京大学名誉教授/特任教授 鈴木真二様 ② JDC (一般社団法人 日本ドローンコンソーシアム) 様との意見交換会 JDC理事: 徳島大学 三輪 昌史先生、千葉大学 鈴木 智先生
WG内勉強会	① 「レベル3.5飛行の取り組み: 長島ダムの点検」 パスコ/塚 浩一氏 ② 「レベル3.5飛行の取り組み: 本土一離島(佐久島)」 Prodrone/白石 理沙氏 ③ 「UAVレーザや地上LS等のハイブリッド計測について」 ウエスコ/草加 大輝氏 ④ 「計測技術(3次元測量)の紹介」 日本工営都市空間/石川 雄大氏 ⑤ 「Exyn Nexys/NexysProの紹介」 ニコン・トリンブル/岩上 弘明氏
自主研究活動等	① 安全情報(ヒヤリハット事例)の収集・分析 ② WG参加企業の所有機材のリスト化
外部委員活動	① ドローンを活用した河川巡視・点検への適用検討会 ② 小型無人機に係る環境整備の官民協議会 ③ 日本無人機運行管理コンソーシアム(JUTM) 社会実装WG、エコシステムWG



DSPA様との意見交換会



JDC様との意見交換会

3. おわりに

「国土管理・コンサル部会」および「ドローンWG」は、測量調査事業の健全な発展に貢献すべく、今後も他の部会・WGと連携しながら、引き続き活動を継続してまいります。関係各位

には引き続き、当部会・WGへのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、興味・関心をお持ちの会員各社の皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。